

令和8年度 山口県私立学校教育功労者表彰に係る受賞者一覧

○校種:幼稚園

(※年齢は6月4日現在)

所属	学校法人信望愛学園 高千帆小百合幼稚園 (山陽小野田市)	職名	園長	氏名	ふじなが くみこ 藤永 くみ子	性別	女	年齢	63
<p>昭和58年に下関暁の星幼稚園に奉職。一旦退職したものの、高千帆小百合幼稚園において、平成12年から非常勤教諭として勤務した後、平成28年からは常勤教諭に採用され、以後、副園長、園長として幼児教育の振興に尽力してきた。</p> <p>同園は、カトリック教育理念に基づき、生命の尊厳を尊び、一人ひとりが人を信頼し、人から愛されて生きるための基礎を培っていくことを教育方針とし、個性を尊び、自ら選んでいく主体性を育てる「モンテッソーリ教育」を実践している。</p> <p>このモンテッソーリ教育では、子どもたちが、豊かな社会性と健康な精神をもって自立できるよう援助を行っており、こうした活動がより充実したものとなるよう、クラスも縦割り(異年齢混合クラス)を基本とし、子どもたちが助け合って成長していくことを目指している。</p> <p>また、絵本を通して子どもの成長により深く関わるため、日々の読み聞かせを行うとともに、絵本に出てくる料理や食材を給食に取り入れる「絵本給食」を実施し、食に対する興味や関心を高め、食への大切さや感謝の気持ちを育む機会も提供している。</p> <p>さらに、年長児に対しては、iPadを活用した調べ学習を実施するなど、時代の流れも踏まえつつ、子どもたちの主体的・探究的な学びを深める教育を行っている。</p> <p>藤永氏は、子どもの健やかな育ちとそのための環境を整えることに力を尽くし、「平和」「希望」「愛」を大切にする教育を推進している。「人から愛され、自らも人を愛し、大切にできる人に育ててほしい」という願いを胸に、保護者の理解を得ながら、一人ひとりの子どもの良さを尊重し、その成長や魅力を家庭へ伝えていくことを自らの使命と感じ、家庭や地域に受け入れられる幼稚園づくりに努めている。</p>									

所属	学校法人小野田めぐみ学園 認定こども園小野田めぐみ幼稚園 (山陽小野田市)	職名	理事長 兼園長	氏名	さの ふとし 佐野 太	性別	男	年齢	60
<p>小野田めぐみ幼稚園の園長への就任を前提に、園運営の円滑な移行を図る必要から早期着任を要請され、平成22年10月に園長代理として奉職した。以後、平成23年4月から園長として、さらに平成30年8月からは理事長兼園長として、幼児教育の振興に尽力してきた。</p> <p>小野田めぐみ幼稚園は、創設以来、聖書の「愛の教え」を基盤とし、すべてが愛からはじまり、愛を成し遂げることを、一番大切なことと考え、一人ひとりの個性を伸ばす全人格的な環境のもと、少人数だからこそできる保育を実施している。特別支援教育も充実しており、支援が必要な園児を毎年継続して受け入れているほか、園内に「ことばの部屋」を設置し、ことばやコミュニケーションに支援が必要な園児が気軽に専門家に相談できるよう努めている。こうした中、平成29年には先天性心疾患の子どもを受入れ、保護者からは「この幼稚園での2年間は私たち親子にとって一生忘れられない素晴らしい時間であった」と感謝の言葉が寄せられ、地域社会からも高く評価された。</p> <p>専門性の高い教育にも力を入れており、専門講師による水泳・体操・リミック等の教室を実施し、教職員も寄り添い一体となって園児の心と身体の育ちを支え自立を助けている。また、充実した絵本等の蔵書(2000冊)を活かし、卒園までに200冊を自宅に持ち帰って読むことができる取組を進める一方で、市内の児童文学作家の協力を得て、毎日の給食時間に物を大切にすることを育む放送劇を企画実施するなど、工夫を凝らした特色ある教育活動を積極的に推進している。</p> <p>令和6年度からは、共働き家庭の増加等により幼稚園に通えなくなった保護者の声を機に、山陽小野田市初の幼稚園型認定こども園に移行し、同氏は「新しい子育ての在り方で親子を支える場所となり、地域に貢献したい」と決意を新たにされた。</p> <p>また、同氏は、平成28年6月から(公財)山口県私立幼稚園協会の理事に就任し、令和3年6月からは副理事長として協会運営の中心的役割を担い、山口県における私学振興の推進に寄与している。</p>									

令和8年度 山口県私立学校教育功労者表彰に係る受賞者一覧

○校種:幼稚園

(※年齢は6月4日現在)

所属	学校法人大津学園 認定こども園光顔幼稚園(岩国市)	職名	理事長 兼園長	氏名	おおつ まこと 大津 真	性別	男	年齢	57
<p>平成12年に光顔幼稚園に副園長として奉職し、平成17年には園長として、さらに平成26年には理事長兼園長として、26年にわたり幼児教育の振興に尽力してきた。</p> <p>同園は、仏教の精神に基づき、子どもたち一人ひとりの個性を尊重しつつ、日々の教育・保育に取り組んでいる。自然あふれる環境の中で、戸外活動を中心に心と体をしっかり動かして楽しく遊び、「健全な心身」の発達を培いながら、四季折々の体験を通して生命や自然を「いつくしむ心」を育てている。</p> <p>また、仏事や茶道に受け継がれた作法や健全な価値観に触れながら、社会や仲間と「調和」することのできる力も培っている。特に、茶道による礼儀作法の涵養に取り組んでおり、定期的な茶道教室に加え、岩国地区の高等学校との合同茶会やひな祭り茶会などを実施し、子どもたちが日本の伝統文化に親しみながら、礼節を重んじる態度や相手を思いやる心を育てている。</p> <p>同園は、地域になくてはならない園であり、地元小学校の1・2年生を中心とした連携交流や、毎月1回の園開放による子育て支援事業にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>園名となっている「光顔」は、仏教に由来し、「仏様の顔が悟りの喜びで光り輝いている」という意味で、仏様の慈しみの光に守られて、子ども・保護者・保育者がともに笑顔で過ごせる場でありたいという願いが込められている。</p> <p>大津氏も、子どもが安全に過ごせるための環境整備はもとより、「先生方が元気でないと質の高い教育は実現できない」との信念のもと、教職員の勤務環境の整備に力を入れており、パート職員が正職員に転換するなど、働きやすく安心して力を発揮できる職場環境づくりに努めている。また、保護者の些細な心配ごとにも目配りを怠らず、保護者からも厚い信頼を得ている。</p> <p>このように、同氏は、温かな心を大事に、教職員を一つにまとめ、保護者や地域から厚い信頼を得ながら、「地域に根ざした幼稚園」づくりに多大な尽力をしている。</p>									